



衛星利用による GISの利用可能性の拡大

文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課
宇宙利用推進室長

竹縄 佳二



目次

1. GIS政策における衛星の位置付け
2. 衛星利用のメリット
3. 文部科学省の取り組み
4. 衛星データの利用事例
5. 今後の課題



1. GIS政策における衛星の位置付け

GISアクションプログラム2010

- 地理空間情報を高度に活用する社会を実現するには、基盤地図情報のみならず、地形図、ハザードマップ等の主題地図データ、台帳・統計情報、空中写真、**衛星画像**等、多様な地理空間情報の整備・提供・流通を促進し、GIS上での活用を進める必要がある。
- 地理空間情報の整備の技術の高度化や利用者の利便性の向上を図るため、産学官連携を図りつつ、国は、測量技術の高度化、**人工衛星によるリモートセンシング**や各種センサー機器等による地理空間情報の取得技術、工事図面のCADデータ等を活用した基盤地図情報の更新技術、GISの操作性の向上等の技術開発を行う。



1. GIS政策における衛星の位置付け

GISアクションプログラム2010

- 地理空間情報の作成に衛星測位を用いたり、衛星測位で得られた位置情報をGISで処理するなど、GISと衛星測位の関連性が強まってきた。
- 2005 年に、GISと衛星測位を連携させて総合的に推進するため、GIS関係省庁連絡会議を発展的に改組し、「測位・地理情報システム等推進会議」を設置した。

2. 衛星利用のメリット

(1) 衛星画像・データ(地球観測衛星)

- 広範囲かつ詳細な情報を一度に取得
70km × 70kmの地域を一度に観測
地上分解能2.5m(1/25,000地図に対応)
- 高頻度かつ安価に更新が可能
46日周期で同一地域を観測可能
1シーン(70km × 70km)が25,000円
- 視覚的、直感的なわかりやすさ
地図の背景画として使用(例:グーグルアース)

数値や金額は陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)の場合

